

(研究報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	当院で在宅看取りを行った患者遺族への CES 短縮版を用いた質問紙調査結果の報告
演者名	○五島早苗、木村久美子、上林孝豊、田實武弥、小笠原文雄、臼井曜子
所属	小笠原内科

研究方法 (右から番号を選び NO. 欄に番号をご記入ください)	1. 症例報告 2. 症例シリーズ報告 3. コホート研究 4. 症例対照研究 5. 調査研究 6. 介入研究 7. 二次研究 8. 質的研究 9. その他研究	NO.
		5
目的：在宅緩和ケアを提供した遺族に対して質問紙調査を行うことにより、自らが行った在宅緩和ケアの現状と課題を明らかにすること。 方法：われわれが在宅緩和ケアを提供し、2014 年 5 月 1 日から 7 月 31 日までの期間に在宅看取りをおこなった症例の遺族のうち住所を把握していたものを対象とした。ホスピス・緩和ケア病棟のケアに対する評価尺度 (Care Evaluation Scale for Hospice and Palliative Care; 以下 CES) 短縮版に自由記述の回答欄を追加した質問用紙を用いた質問紙調査を郵送で行った。調査を行うに際しては、対象となった個人が特定されないようにプライバシーに十分配慮した。 結果：1) 応諾状況. 対象者は 13 例、返送ありは 9 例(回収率 69%)。2) 患者背景. 性別は男 5 例、女 4 例。年齢は平均 79.2 歳。癌/非癌の別は、癌 6 例、非癌 3 例。3) 遺族背景. 性別は男 3 例、女 6 例。年齢層は 40 代 1 名、50 代 2 名、60 台 4 名、70 代 1 名、80 代 1 名。患者との続柄は配偶者 4 名、実子±実子の配偶者 4 名、孫 1 名。4) CES 短縮版の調査結果. 回答の「改善すべきことが大いにある」は 1 点、「かなりある」は 2 点、「ある」は 3 点、「少しある」4 点、「ほとんどない」5 点、「全くない」6 点とスコア化したところ、平均スコアが、5 点未満の項目は、「医師の家族への説明の満足度」(平均 4.79 点)と「在宅療養環境への満足度」(平均 4.77 点)であった。全体的満足度は平均 5.44 点であった。5) 自由記述への記載内容. 全例で記載があった。感謝の意が記されたものが 8 例、自宅で最後まで看取れたことの満足感が記されていたものが 5 例、自分(遺族者自身)を見直す機会となったと記されているものが 2 例あった。 考察：概ね良好な満足度が得られていることが分かった。さらなるケアの質向上のためには、家族への説明と療養環境の整備に工夫を加えることが必要と考えられた。		